

『近代建築史』

※資料中の URL は、写真や画像の引用元を示します。

※参考：学芸出版社「建築の歴史」、wikipedia など

『日本編』

<歴史背景>

江戸時代末期、1853年、ペリー率いる黒船が来航。

ペリーの圧力に屈した江戸幕府は、1854年に日米和親条約を結び、徳川幕府は欧米5か国と安政の条約を結び、横浜、長崎、函館などが開港する。

ここから幕末が始まり、勝海舟、西郷隆盛、坂本龍馬、新選組などが活躍する明治維新が始まる。

建築の動きと言えば、各街には外国人居留地の造成が進み、洋風の住宅や、商社、教会などが建てられ始めた。

1863年、長崎に異人館と呼ばれるグラバー邸が竣工する。

外観の特徴は三方にめぐらしたベランダがあり、構造は在来木造で、屋根は和小屋の技術で建てられ、棧瓦が葺かれている。

1868年、明治政府の誕生。

近代化が一気に進み、工業化と交通の整備に合わせて、様々な建築を建設しなければなくなり、政府は多くの外国人技術者を雇い入れた（お雇い外国人）。

当時活躍した外国人技術者にアイルランド生まれのトーマス・J・ウォートルスがあり、土地の管理、測量、土木、建築と幅広く技術を持ち、外国人初の本格的西洋建築である大阪造幣寮の工場と泉布観を建設した。



トーマス・J・ウォートルス

https://www.city.katsushika.lg.jp/history/child/p_image/2/%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%83%BB%E3%83%BB%E3%82%A6%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%88%E3%83%AB%E3%82%B9.jpg

ウォートルスが日本を去った後は、多くの外国人技師が活躍したが、中でも日本の建築界に影響を与えたのが、建築史から構造まで幅広い学識を持った英国人、**ジョサイア・コンドル**であった。



ジョサイア・コンドル

https://jaa2100.org/assets_c/2015/12/img_567485551d5cc2-thumb-771x676-31669.jpg

明治10年（1877年）に来日し、工部大学校造家学科の教師として、日本人建築家を養成し、また本格的な西洋建築を建設して行った。

代表的なものには1891年に東京都に建てられた**ニコライ堂**などがある。

また、工部大学校造家学科では、後に**東京駅**や**日本銀行本店**等を設計する**辰野金吾**や、**赤坂離宮**や**京都帝室博物館**等を設計した**片山東熊**等に、西洋の建築学全てを教えていた。



辰野金吾



片山東熊

<https://www.suzukishoten-museum.com/footstep/area/images/93->

<1%E8%BE%B0%E9%87%8E%E9%87%91%E5%90%BE.jpg>

<https://sumukoto.com/wp-content/uploads/2020/06/1200-katayama-tokuma-photo2.jpg>

西洋建築を目の当たりにした日本の大工は、伝統的な木造技法を駆使しながら、西洋建築の意匠や構成を見よう見まねで設計・施工していった。

それらを**擬洋風建築**と呼ぶ。

代表的なものに1876年に長野県松本市に建てられた「**旧開智学校校舎**」がある。

明治12年（1879年）、日本における最初の本格的建築家境域機関であった**工部大学校造家学科**から、第1期卒業生として**辰野金吾**や**片山東熊**ら4人が社会に送り出された。

欧米の建築技術を模範することで成し遂げられたかのように見えた日本の近代化であったが、思いもよらないことが起こる。

日本の近代化を象徴する構造材としては、まずレンガが挙げられ、コンドルや辰野金吾以降、レンガの組積造（フランス積みやイギリス積み）は大いに用いられていった。

ところが、明治24年（1891年）に愛知、岐阜を大地震が襲い、名古屋付近に建てられたレンガ積みの組積造の建築が、軒並み崩壊してしまった。

建築家たちは、地震の少ない欧米で発展した建築構造をそのまま日本で採用するのは間違いであると初めて気づいた。

それ以来、日本の風土に合致した構造法の開発が課題となり、欧米の技術の中から、特に耐震的な技術を学ぼうという姿勢になり、鉄骨造が始まっていった。

鉄筋コンクリートの技術も定着して行き、特に関東大震災後は、耐震構造の花形として発展していった。

明治時代以降、日本人建築家の課題の一つに歴史様式の習熟があった。そんな中、最も人気があったのは古典主義や歴史主義だった。

岡田信一郎の大阪中央公会堂（1912年）や、野口孫市（まごいち）の大阪図書館（1904年）が西洋の古典様式で代表的な建物である。



岡田信一郎



野口孫市

<https://sumukoto.com/wp-content/uploads/2020/09/Okada-Shinichiro-2-1.png>

https://www.nikken.jp/ja/insights/corporate_history/pj4urv00000039op-img/pj4urv00000039qc.jpg

時代が大正に移ると、日本にもアール・ヌーヴォーやゼツェッションの活動が知られ、そういった欧米の新しい建築様式に、当時の若い建築家たちも感化されていった。

以後、鉄筋コンクリート造の建築が増え、機能性と経済性が重要視されるようになる。

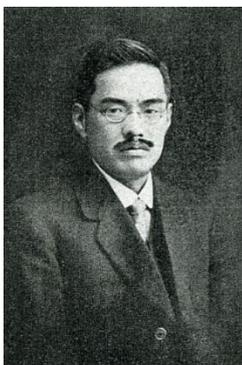
デザインも装飾性から合理性を追求するものへと移行し、昭和2年（1927年）、関西の建築家を中心に「日本インターナショナル建築会」が設立する。

外国人会員の中には、ヴァルター・グロピウス、ブルーノ・タウト、ヨゼフ・ホフマンなどの名があった。

創立者の本野精吾は、京都において日本最初期のモダニズム建築といえる西陣織物館（1914年）を建設している。

大正12年（1924年）の関東大震災の翌年、災害に寄せられた義援金を基に1000万円の資金があてられ、同潤会が設立された。

歴代会長には内部大臣が就き、理事や評議員には、内田祥三（よしかず）など当時の都市計画、住宅政策の専門家達が名を連ねた。



内田祥三

https://takearch1894.com/wp-content/uploads/2023/11/Uchida_Yoshikazu_Portrait.jpg

同潤会は震災でも木造家屋が全焼したことを反省点とし、東京都の青山に日本初の鉄筋コンクリートによるアパートの建設を行った。

それが同潤会アパート（1926年）である。

そして当時、震災において、フランク・ロイド・ライトが設計した東京帝国ホテルは、壊れずに残り注目された。

ライトは、日本人の弟子も多く育て、ライトの特徴をよくつかんだ**甲子園ホテル**を設計した**遠藤新**は弟子の一人である。



遠藤新

<https://www.yodoko-geihinkan.jp/wordpress/wp-content/uploads/2016/03/sb-14-1.jpg>

また、様々な西洋建築が盛り込まれる中、古来からの日本の伝統的な表現をどのようにモダニズム建築に取り入れるかが課題であったが、1918年、**下田菊太郎**が**定冠併合式**という、鉄筋コンクリート造の洋風建築の躯体に、日本の瓦屋根を載せ、装飾も和風なものを使用する形式を発表した。



下田菊太郎

<https://akitahs-doso.jp/libra/photo/12.jpg>

昭和初期のナショナリズムの色が濃くなるにつれ、この**定冠様式**の建築が多く建設され一般的には、**ナショナリズム**と**ファシズム**が高揚した**1930～1940年**のものを指す。具体的な建物としては、**神奈川県庁舎**、**名古屋市庁舎**、**軍人会館**、**東京帝室博物館**、**京都市美術館**などが挙げられる。

戦前より展開されてきた日本の**モダニズム建築**であったが、**第二次世界大戦**により一時中断されていた。

1950年代以降、日本経済はめざましく発展し、**高度経済成長期**に突入。

戦後復興のシンボルとして**モダニズム建築**を日本で定着させるために重要な役割を果たした人物が、**ル・コルビュジェ**に師事した**坂倉準三**や**前川國男**らであった。

また、**丹下健三**や**黒川紀章**も戦後の日本建築会をけん引していった代表的人物である。



丹下健三



黒川紀章

<https://p1.ssl.qhimg.com/t019bdae775969d5843.jpg>

https://image.chess443.net/S2010/upload/2021082500001_7.jpg

そしてこのころ、3回目の伝統論争が巻き起る。

伝統の継承が多く建築家の関心ごとになったのは、1910年代、1930年代、1950年代においてである。

それは、西洋との違いを強調しつつ、西洋のやり方を利用し、日本のアイデンティティを示すというものであった。

1950年代に起こった戦後の伝統論争の口火を切ったのは、雑誌「**新建築**」の当時の編集長、**川添登**であった。



川添登

https://logo-imagecluster.img.mixi.jp/photo/comm/10/82/541082_111.jpg

この論争では、丹下健三の唱える洗練された弥生的な美と、白井晟一（せいいち）の唱える力強い縄文的な美が対比的に論じられた。



白井晟一

<https://sumukoto.com/wp-content/uploads/2020/05/shirai.png>

1960年に開催された世界デザイン会議のために結成されたグループの名称を**メタボリズム**と呼ぶ。

川添登、菊竹清則、大高正人、槇文彦、黒川紀章等によって構成された。



槇文彦

<https://i1.wp.com/artmatome.com/wp-content/uploads/2016/01/36ce65f6.jpg>

建築が取替えによって維持・運営されているという考えが根底にあり、生物学で新陳代謝を意味する**メタボリズム**という言葉がグループ名となった。

建築全体を構成する最小要素としての空間（カプセル）が取り出され、これを機能変化に対応させることで、成長、変化、代謝、過程、流動性といった時間にかかわる諸概念が建築に導入された。

一方、戦後の住宅事情といえば、圧倒的に不足していた住宅の供給であった。1950年代、戦後の住宅政策が積極的に打ち出され、1950年に住宅金融公庫、1951年に公営住宅法、1955年には**日本住宅公団法**が設立した。

日本住宅公団で建設される建物は、耐火構造による集合住宅で、それらは「**団地**」と呼ばれた。

団地における間取りの基準になったのが、1951年に東京大学の吉武研究室で発表された

2DKの「**51-C型**」である。

食寝分離が前提とされ、台所と食事の場を兼ねたダイニングキッチンが登場し、戦後日本における住宅形式の原型となった。

また、政府による住宅政策と並行して、建築家による**最小住宅**の提案も盛んに行われた。

池辺陽、増沢洵、清家清、菊竹清則などの活躍が目覚ましく、限られたスペースの中での合理的な住まいの提供、構造や材料による経済性の追求、日本の伝統的な雰囲気醸し出す

ディテールなどをテーマとした小住宅が次々と発表された。

1960年代、高度経済成長によって、都市の過密化が一層深刻な問題となる。同時に、都市が益々拡大し、都心から離れた郊外での居住を余儀なくされるようになった。

それに対し、**東孝光**の**塔の家**は、都市に住むという強い意志の表現だった。

1970年代に入ると、「**野武士**」と呼ばれる若い建築家たちが台頭してくる。彼らの特徴は、これまで当たり前とされてきた建築のあり方を徹底的に批判することにあった。

そこから、**安藤忠雄**の**住吉の長屋**や、**伊東豊雄**の**中野本町の家**といった、これまでにはなかった発想の都市住宅が生み出されていった。

「**野武士**」とは、1970年代末に槇文彦が、当時30から40歳代の若手建築家たちを指して命名したもので、**安藤忠雄、伊東豊雄、高松伸、六角鬼丈**などらを指し、近代という既に確立されたものから距離をとり、それぞれの建築論によって幅広い作風を展開した。

1960年代後半から1970年代前半にかけて見られた建築の変動を、磯崎新は「建築の解体」と呼んだ。



磯崎新

https://www.arttowermito.or.jp/topics/images/img_40067/DSC03796.jpg

近代特有の理念であった機能性や均質性に代わって、建築形態の象徴性や記号性、多様性が評価されるようになった。

こうした建築表現を支持した思想的立場を「ポストモダニズム」と呼ぶ。

そして、ポストモダン以降、建築設計の重要な要素において、都市や自然といった「場」や周辺環境との関係性を融合（一体化）させる動きも出てくる。

安藤忠雄の直島コンテポラリーアートミュージアムでは、建物の大部分を地下に埋没させ、自然の大地と建築の一体化が試みられた。

また、文化的に価値のある街並みや建造物の保存運動も活発化し、高い関心性が示されている。

これはドコモモ（存続の危機にさらされた近代運動に関わる重要な建物の監視、保存技術に関する情報交換、遺産継承の必要性に対する認識の育成を目的とした国際組織）に代表される世界的な趨勢でもある。

既存の建物を再評価する姿勢は、新しく建築を創造する過程においても強く意識されるようになり、リノベーションといった、古い建物の修理や改装による「場の再生」への高い関心が見られる。

まさに、新しいものと古き良き伝統とのハイブリッド建築である。

近代建築は、空間を人為的に秩序付けようとしたが、**ゲニウス・ロキ**（ある土地から感覚的に受ける印象や連想性、土地が醸し出す潜在的な可能性といった概念で、その土地に根付いてきた文化や歴史、社会といった背景を読み解く要素も含まれる）という概念で示されるように、人間が生活する「場」には、空間の機能性だけでなく、場所としての個性が存在する。

気候風土に加え、すでに存在している建築物や、そこで暮らす人々の生活など、建築を取り巻く環境は様々な条件が複雑に絡み合っている。

建築の風景化や、**既存建築物のリノベーション**は、既に存在する環境を改めて考え直す契機になるとともに、**場所を再生**させる一つにきっかけとなる。

《日本の建築家の住宅》

【藤井 厚二】

「聴竹居」 1928年 京都府 (過去問：H26)



<https://www.dougukan.jp/wp-content/uploads/2017/11/a073e55e5790b72df7cdaaf54e13d3cf.jpg>

<https://souda-kyoto.jp/blog/ea410e000000a7t7-img/1.jpg>

<https://sumukoto.com/wp-content/uploads/2020/07/Fujii-koji-photo-1.jpg>

<特徴>

- ・ 真の日本の気候、風土にあった日本人の身体に適した住宅をテーマに設計された。
- ・ 木造平屋の住宅。
- ・ 風の気流や太陽の採光など**自然の力**を生かせるよう、床下に埋めた土管に庭の快適な外気を取り込み室内に送り込むなど**環境工学に配慮した設計**がなされている。
- ・ 室内の居間では**畳敷き小上がりの和の空間**と、**近代的な椅子式生活を統合した欧風の空間**が同在する。

【土浦 亀城】

「土浦亀城邸」 1935年 東京都・品川区 (過去問：H24)



<https://shinaken.jp/wp-content/uploads/2019/10/13.jpg>

https://jp.toto.com/tototsushin/database/img/kameki_tsuchiura.jpg

<特徴>

- ・ 白い箱、吹抜け、複数の床レベル、モダンな木造住宅。

【前川 國男】

「前川國男自邸」 1942年 東京都・小金井市 (過去問：H29)



<https://i.pinimg.com/originals/1e/fc/1a/1efc1aeb672aab988cb7be70c4b9775.jpg>

google.com.sg <http://andotadao.com/wp-content/uploads/2017/10/mig.jpg> papakichi

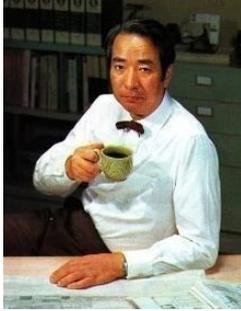
https://blogimg.goo.ne.jp/user_image/5b/c2/8f1e2dee913923ee947c8974e4475114.jpg image の家づくり

<特徴>

- ・ 5寸勾配の切妻屋根。
- ・ 吹抜け、中2階のギャラリー、南側大開口。

【清家 清】

「斎藤助教授の家」 1952年 東京都・千代田区 (過去問：R4、H18)



https://www.asunaro-studio.com/blog/sekio/wordpress/wp-content/uploads/2018/08/3781860_n.jpg

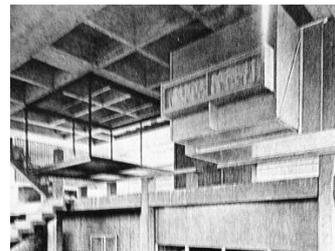
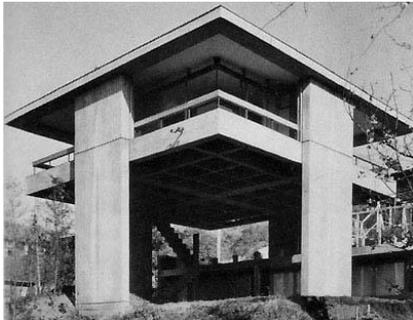
<https://image.space.rakuten.co.jp/lg01/10/0000238010/49/img65101df7zik9zj.jpeg>

<特徴>

- ・テラス、廊下、居間・食堂を連続させた開放的な空間。
- ・可動の家具を配置し、空間を状況に応じて変更、場面に応じて空間を設える「舗設」の概念。

【菊竹 清則】

「スカイハウス」 1957年 東京都・文京区 (過去問：H24、H20、H11)



https://pds.exblog.jp/pds/1/200502/04/33/c0018233_7555164.jpg

https://xtech.nikkei.com/kn/article/building/photo/20061114/500950/pic-kikutake_kiyonori_001.jpg

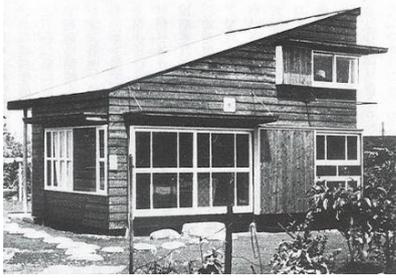
<https://i.pinimg.com/originals/ca/77/ef/ca77ef85bc8daca89c3edda31758adec.jpg>

<特徴>

- ・4枚の壁柱で居室空中持ち上げ。
- ・HP シェルの屋根。
- ・設備更新（ムーブネット）。

【池辺 陽（きよし）】

「立体最小限住宅」 1950年 東京都・新宿区 （過去問：H20）



<https://i.pinimg.com/474x/ea/d6/a9/ead6a9719d2faf993270cecdc4224aff--architects.jpg>

https://blogimg.goo.ne.jp/user_image/08/a1/3a8aad9f36cc328036288858e02224e8.jpg

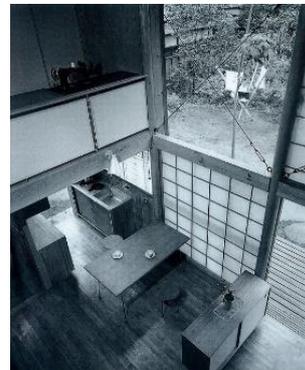
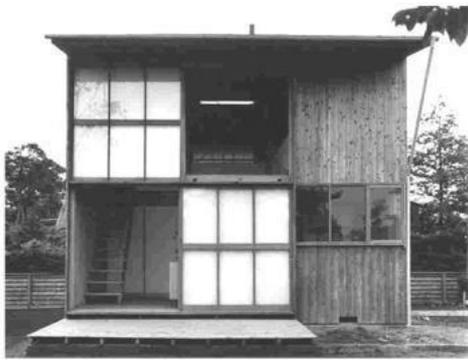
<https://ikenchiku.jp/2020/wp/wp-content/uploads/minimal3.jpg>

<特徴>

- ・ **立体最小限住宅（木造）。**
- ・ **工業化住宅、吹抜け、15坪。**

【増沢 洵（まこと）】

「増沢洵邸」 1952年 東京都・渋谷区 （過去問：R4、H24）



<http://myopensystem.jp/log/20120214.jpg>

<http://img02.eshizuoka.jp/usr/act/s-%E5%97%B2%E6%B4%B5.jpg>

<http://img02.eshizuoka.jp/usr/act/s-%E5%97%B2%E6%B4%B5%E9%82%B8%E5%86%85%E8%6%B3.jpg>

<特徴>

- ・ **極限的小住宅（木造）。**
- ・ **吹抜け前面開口、南面障子からの光。**
- ・ **3間×3間=9坪。**

【吉阪隆正】

「ヴィッラ・クウクウ」 1957年 東京都・渋谷区 (過去問：R4)



<https://sumaiinteriorhosue.up.seesaa.net/image/E383B4E382A3E383A9E382AFE382A6E382AFE382A62.jpg>

https://hhtrust.jp/image/hh_villacoucou_03.jpg

https://kamado-japan.com/wp/wp-content/uploads/2022/01/Yosi_01s.jpg

<特徴>

- ・コンクリートの特性を生かした形態と彫りの深い開口。
- ・色ガラスをはめ込んだ小さな開口部やトップライト。
- ・外部に対して閉じることにより、閉鎖性を作り出したワンルーム形式。

【坂倉 準三】

「正面のない家」 1960年 兵庫県・西宮市 (過去問：R4、H18)



<https://i.pinimg.com/originals/40/a3/e6/40a3e66da8d9ff151f2af3d110b68bd2.jpg>

<https://imgcp.aacd.jp/img-a/800/auto/aa/gm/article/4/0/2/3/9/00.jpg>

<https://www.biz-lxil.com/column/pic/architect016/img01.jpg>

<特徴>

- ・RC造+木造平屋。
- ・敷地全体を塀で囲んだコートハウス。
- ・4つの庭からの採光。

その他：プロムナード多摩中央（ストリートハウス：道に開いた居室）。

【篠原一男】

「から傘の家」 1961年 東京都・練馬区 (過去問：R4、H11、H8)



https://fashionsnap-assets.com/article/images/2022/07/vitra-umbrella-20220705-20220606_044.jpg

https://hhtrust.jp/news/wp-content/uploads/2022/07/A1_0374-1-21sa-1536x1024.jpg

<http://www.visionunion.com/admin/data/file/img/20140403/20140403000802.jpg>

<特徴>

- ・ シンプルなワンルームで、**正方形の平面に方形の屋根**。
- ・ 約 16.6 坪 (55 m²) の平面だが、**傘状の扇垂木の天井**が、空間を広く見せている。
- ・ 和室と屋根の間のロフトスペースは収納空間になっている。
- ・ スイスの家具メーカー「ヴィトラ」が、ドイツのヴィトラキャンパスに再建・移築した。

【吉村順三】

「軽井沢の家」 1962年 長野県・軽井沢 (過去問：二級 H26、H21)



<https://mirutake.sakura.ne.jp/2012/58sanso/03.jpg>

<https://i.pinimg.com/736x/6a/7c/c2/6a7cc21c33b2cf12551f6b6f2f554cb5--architects.jpg>

<特徴>

- ・ 吉村順三自身の別荘。
- ・ 自然に溶け込んだ**有機的建築**。
- ・ 鉄筋コンクリート造の1階の上に、木造の2階を配置し2階には暖炉がある。
- ・ 片流れの屋根と屋上の露台を持つ特徴的な空間。

【東 孝光】

「塔の家」 1966年 東京都・渋谷区 (過去問：H18、H11)



<http://isidora.sakura.ne.jp/mediakenchiku/ken1511.jpg>

<http://tairyudo.com/images/tukan08cul2015/azumatakamiti01.jpg>

<https://i.pinimg.com/originals/7e/1c/67/7e1c67e2274a453e0d11c333e5534bd2.jpg>

<特徴>

- ・ **6坪強の不整形敷地**に建つ**最小限RC住宅**で、各階に一つの機能。

【山下和正】

「夫婦屋根 (めおとやね) の家」 1968年 神奈川県 (過去問：H18、H8)



<https://i.pinimg.com/736x/f4/95/70/f4957085e430dafd27814a9f90bbf3ef--yurt.jpg>

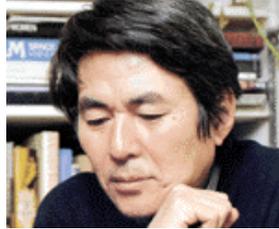
https://xtech.nikkei.com/kn/article/building/column/20140702/669410/thumb_720_01_0281.jpg?20220512

<特徴>

- ・ 画家とピアニストの夫婦の家。
- ・ **コンクリートブロック造2階建て**のそれぞれトップライトのある寄棟屋根。
- ・ ローコストでありながら、**耐久性、防火性、遮音性に優れた住宅**を追求した。
- ・ 1階は生活部分、2階にアトリエとピアノ室がある。

【宮脇 檀】

「まつかわぼっくす」 1971年 東京都・新宿区 (過去問：H18)



<https://i.pinimg.com/736x/f9/41/4d/f9414dc72c9ded37793f21b0009a62c1--prize-.jpg>

https://logo-imagecluster.img.mixi.jp/photo/comm/37/92/153792_230.gif

http://blogimg.goo.ne.jp/user_image/06/dd/66c9efee1369f0716efd93259b56635d.jpg

<特徴>

- ・ RC造+木造2階建て。
- ・ **準コートハウス形式**の住宅。
- ・ 中庭の求心性。

【原 広司 (ひろし)】

「原広司邸」 1974年 東京都・町田市 (過去問：H29、H24)



<https://livedoor.blogimg.jp/app27527606/imgs/7/0/70cec609.jpg>

https://www.biz-lxil.com/news/article/ia_seminar/009/images/hara.jpg

<https://i.pinimg.com/736x/2b/65/40/2b6540865283699dd651963ce266f7e7--hiroshi-hara-japanese-architecture.jpg>

<特徴>

- ・ 玄関からバルコニーまで降りる **中央吹抜けの両側に居室**。
 - ・ **トップライト**住居の中に「都市を埋蔵する」構成を意図した住宅。
- その他：京都駅、梅田スカイビル等。

【安藤忠雄】

「住吉の長屋」 1976年 大阪府・住吉区 (過去問：二級 H19)



<https://i.pinimg.com/originals/3e/7b/9f/3e7b9fb5858d4265aafed1af2f63a914.jpg>

<https://foriio.imgix.net/store/67bb0579590be0afd67a930de8a25bf1.png?ixlib=rb-3.1.1&w=2184&auto=format%2Ccompress&s=720fae68662d7456dd33276f94421112>

https://magazine-asset.tecture.jp/wpcms/wp-content/uploads/2022/05/15181809/pro_tadao-ando.jpeg

https://magazine-asset.tecture.jp/wpcms/wp-content/uploads/2022/05/15181809/pro_tadao-ando.jpeg

<特徴>

- ・狭小敷地に建つ、全て**コンクリート打放し**で、壁や床は全てコンクリート仕上げ。
- ・狭い空間を3等分し、**中央を中庭**にしている。
- ・総工費は解体費含め1000万円。
- ・外部に面して採光目的の窓は設けず、**採光は中庭から**だけ。
- ・玄関に入ると居間があり、台所や2階に行くには、屋根のない中庭を通って行く。
- ・雨の日に傘を差さないとトイレに行けない。
- ・「使いにくい、冬は寒い」など訴える施主に対して「アスレチックに行け」と言っている。

その他：小篠邸、表参道ヒルズ（同潤会青山アパート）、六甲の集合住宅、TIME'S、光の教会、フォートワース現代美術館、地中美術館、子ども図書館など

【伊東 豊雄】

「シルバーハット（伊東豊雄自邸）」 1984年 東京都・中野区 （過去問：H18）



https://pds.exblog.jp/pds/1/201205/08/97/a0074197_8561214.jpg

https://www.10plus1.jp/monthly/img/1204/1204_ito.jpg

https://www.tozai-as.or.jp/mytech/87/images/87_ito07a-c.jpg

<特徴>

- ・ RC造+一部鉄骨2階建て。
- ・ RC柱の上に**鉄骨フレームの屋根**。
- ・ コート上部に吊られた**開閉可能なテント**。
- ・ コートを半屋外の居間空間。

その他：仙台メディアテーク、横浜風の塔、トーレス・ポルタ・フィラ等。

【妹島和世】

「梅林の家」 2003年 東京近郊



<https://blog-imgs-34.fc2.com/j/y/u/jyuutakujuutaku/20100206221514d7f.jpg>

<https://www.sankei.com/images/news/161103/lif1611030027-p3.jpg>

<特徴>

- ・東京近郊にある敷地が元々美しい梅林だったことからその名がついた。
- ・梅の木々を住宅の周囲に残し、ガーデニングのできる庭をテラスに設けている。
- ・個々の小さな部屋が連なった平面構成と断面構成。
- ・外壁は断熱層がある厚さ **50mm** の鉄の壁、間仕切壁は厚さ **16mm** の薄い鉄板で仕切られている。
- ・家族5人が**ワンルーム感覚**で暮らせるよう、個人空間と共同空間があいまいに連続している。
- ・JIA 日本建築大賞 2005 大賞。

その他：金沢 21 世紀美術館